



2019年度 第2四半期決算説明会資料

トピー工業株式会社

証券コード 7231



2019年度（2020年3月期） 第2四半期決算について

2019年度 第2四半期決算 前年同期対比



売上高は、新規連結効果があり増収となったが、営業利益は、建設機械用足回り部品等の販売数量が減少した影響が大きく、減益。

(単位：億円)

	2018年度 上期	2019年度 上期	前年同期比	
			増減	増減率
売上高	1,352	1,372	+20	+1.5%
営業利益 (営業利益率)	33 (2.5%)	23 (1.7%)	△10 (△0.8ポイント)	△30.6%
経常利益	34	16	△18	△54.1%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	22	9	△13	△61.8%
中間配当 (円)	20	40	+20	—

2019年度上期の経営環境 (2018年度上期対比)

○－×：環境・影響の評価

◆外部環境

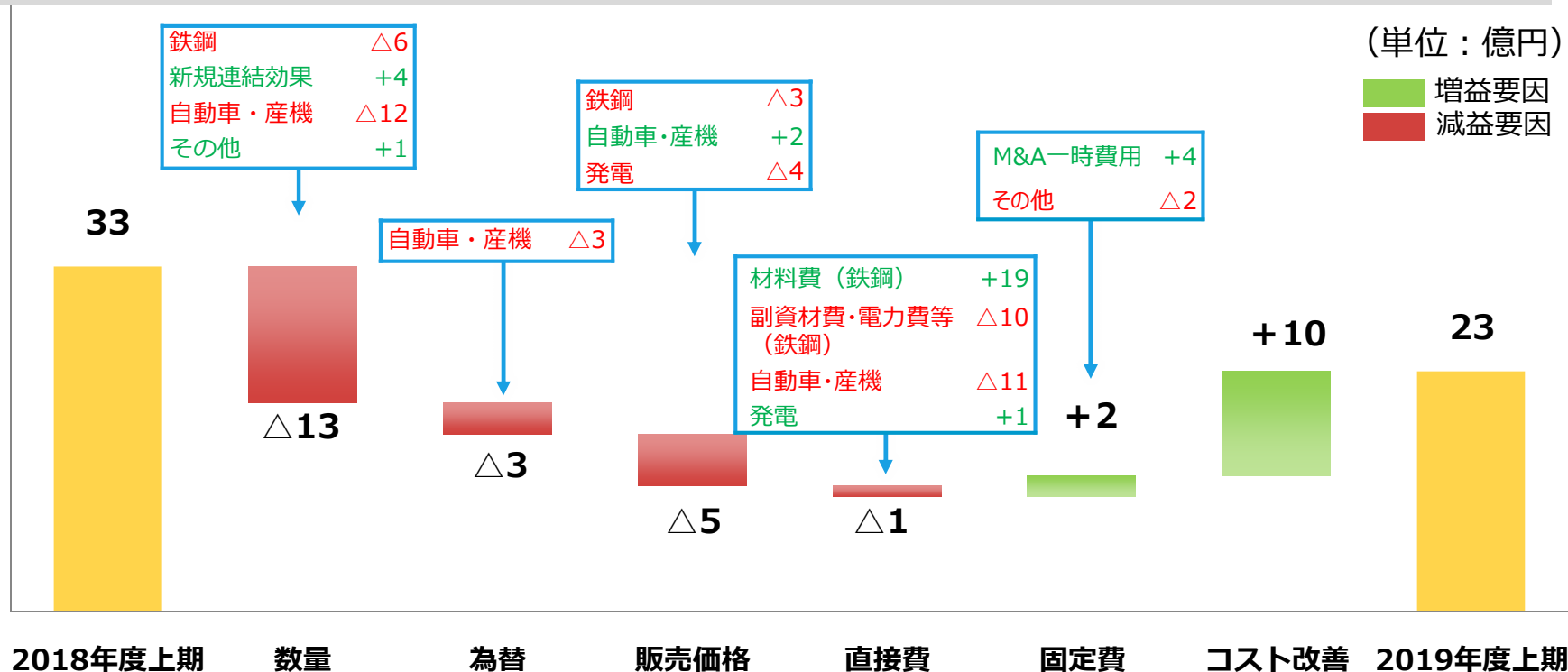
海 外 経 済	－	米国：回復が続くものの、減速傾向
	×	中国：成長が鈍化
	×	東南アジア：中国経済の影響を受け、成長が鈍化
日 本 経 済	－	緩やかな回復が続くものの、輸出や生産に弱い動き

◆当社グループ

鉄 鋼 事 業	×	鋼材需要が減少
	○	鉄スクラップ価格の低下が続く一方、販価維持により、メタルスプレッドが改善
	－	副資材価格、電力料金等は高止まり
自 動 車 ・ 産 業 機 械 部 品 事 業	×	自動車用ホイール：米国、中国の自動車生産が減少
	×	履帯・履板：日系メーカーの油圧ショベル生産が大きく減少
	×	鉱山機械用ホイール：鉱山機械需要が減少
発 電 事 業	×	燃料購入費の低下を上回って、販売価格が低下

営業利益増減要因（対2018年度上期実績）

鉄鋼事業のメタルスプレッド改善や自動車・産業機械部品事業の新規連結効果があったものの、鉄鋼事業および自動車・産業機械部品事業において、販売数量が減少した影響が大きく、△10億円減益。



期間為替	2018年度上期	2019年度上期
米ドル	110.7円	108.7円
中国元	16.6円	15.6円

コスト改善	直接費 +10
	固定費 0

2019年度 上期セグメント別業績



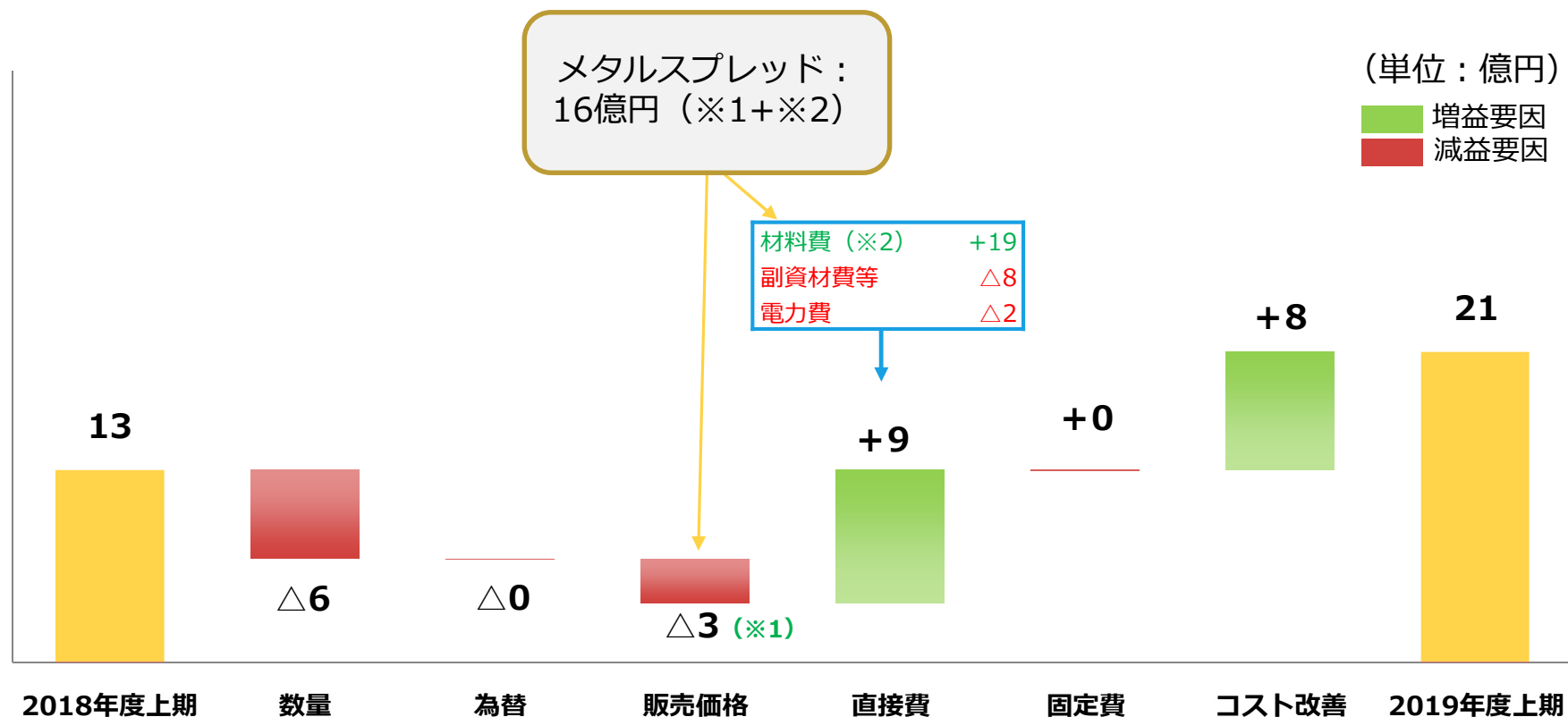
鉄鋼事業はメタルスプレッドの改善効果により、+8億円増益。自動車・産業機械部品事業はアルミホイール部門の新規連結効果があったものの、建設機械用足回り部品等の販売数量減少の影響が大きく、△16億円減益。

(単位：億円)

	2018年度上期		2019年度上期		前年同期比	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
鉄鋼事業	410	13	370	21	△40	+8
自動車・産業 機械部品事業	859	36	923	20	+64	△16
発電事業	49	4	46	1	△3	△3
その他	34	8	33	6	△1	△2
消去	—	△28	—	△25	—	+3
連結計	1,352	33	1,372	23	+20	△10

鉄鋼事業 営業利益増減要因 (対2018年度上期実績)

販売数量が減少したものの、鉄スクラップ価格の急速な低下に対し、販売価格の維持に努めたことによるメタルスプレッドの改善とともに、コスト改善を積み上げ、+8億円増益。



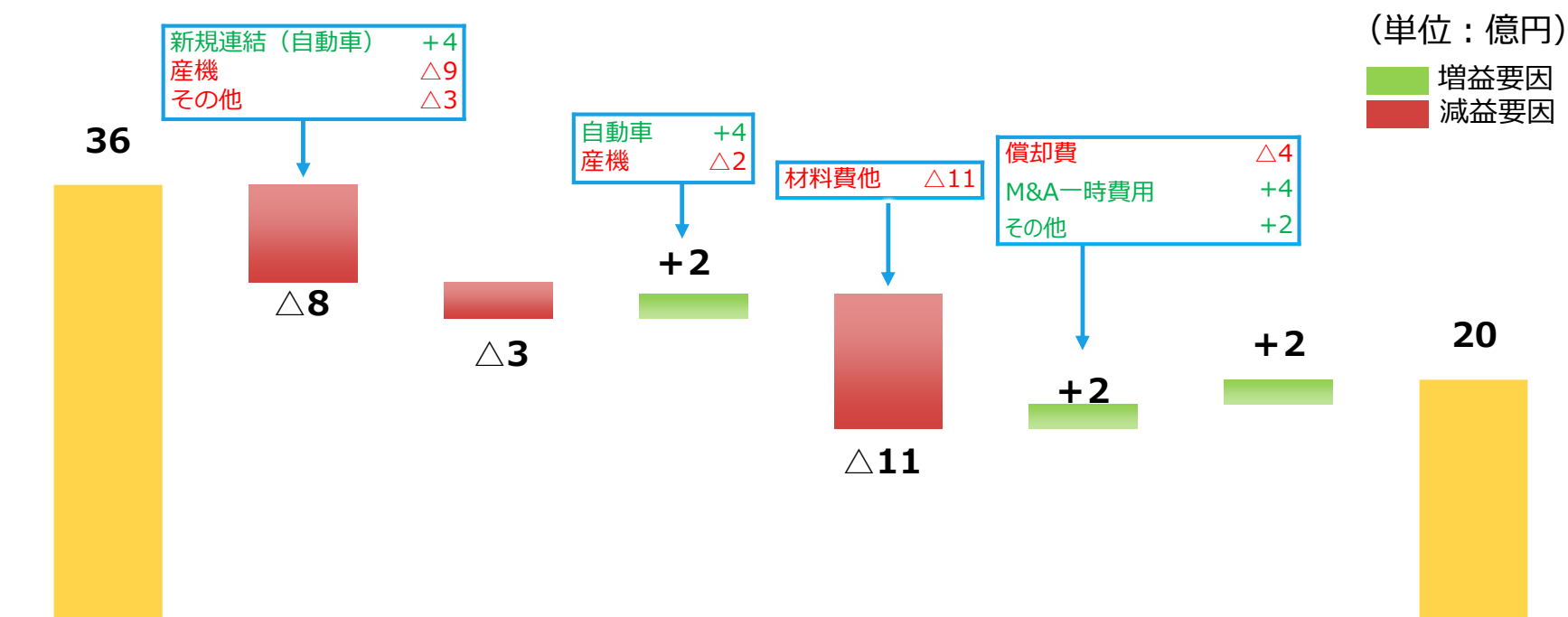
期間為替	2018年度上期	2019年度上期
米ドル	110.7円	108.7円
中国元	16.6円	15.6円

コスト改善	直接費 +8
	固定費 0

自動車・産業機械部品事業 営業利益増減要因 (対2018年度上期実績)



アルミホイール部門の新規連結効果があったものの、建設機械用足回り部品等の販売数量減少の影響が大きく、△16億円減益。



2018年度上期 数量 為替 販売価格 直接費 固定費 コスト改善 2019年度上期

期間為替	2018年度上期	2019年度上期
米ドル	110.7円	108.7円
中国元	16.6円	15.6円

コスト改善	直接費 +2
	固定費 0

2019年度上期 地域別売上高（グローバル）



自動車・産業機械部品事業の海外売上比率は41.0%、連結売上高全体に占める海外売上比率は、前年度末に比べ1.1ポイント増加の29.8%。

（単位：億円）

	日本	米国	中国	その他	合計
鉄鋼事業	340 (24.8%)	4 (0.3%)	0 (0.0%)	26 (1.9%)	370 (27.0%)
自動車・産業 機械部品事業	544 (39.7%)	164 (11.9%)	72 (5.2%)	143 (10.4%)	923 (67.2%)
発電事業	46 (3.4%)	—	—	—	46 (3.4%)
その他	32 (2.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.1%)	33 (2.4%)
合 計 海外比率計：29.8%	962 (70.2%)	168 (12.2%)	72 (5.2%)	170 (12.4%)	1,372 (100.0%)
<参考> 2018年度 合 計 海外比率計：28.7%	2,042 (71.3%)	326 (11.3%)	179 (6.3%)	315 (11.1%)	2,862 (100.0%)

2019年度第2四半期決算 当初予想対比(5月10日公表)

建設機械用足回り部品および鉱山機械用ホイールの販売数量が想定を大幅に下回ったこと等により、当初予想対比で減収減益。

(単位：億円)

	2019年度 上期当初予想	2019年度 上期実績	当初予想対比	
			増減	増減率
売上高	1,490	1,372	△118	△7.9%
営業利益 (営業利益率)	42 (2.8%)	23 (1.7%)	△19 (△1.1ポイント)	△44.6%
経常利益	44	16	△28	△64.7%
親会社株主に帰属 する四半期純利益	31	9	△22	△72.3%
中間配当 (円)	40	40	±0	—

2019年度上期の経営環境 (対当初予想(5月10日公表))



○－×：環境・影響の評価

◆外部環境

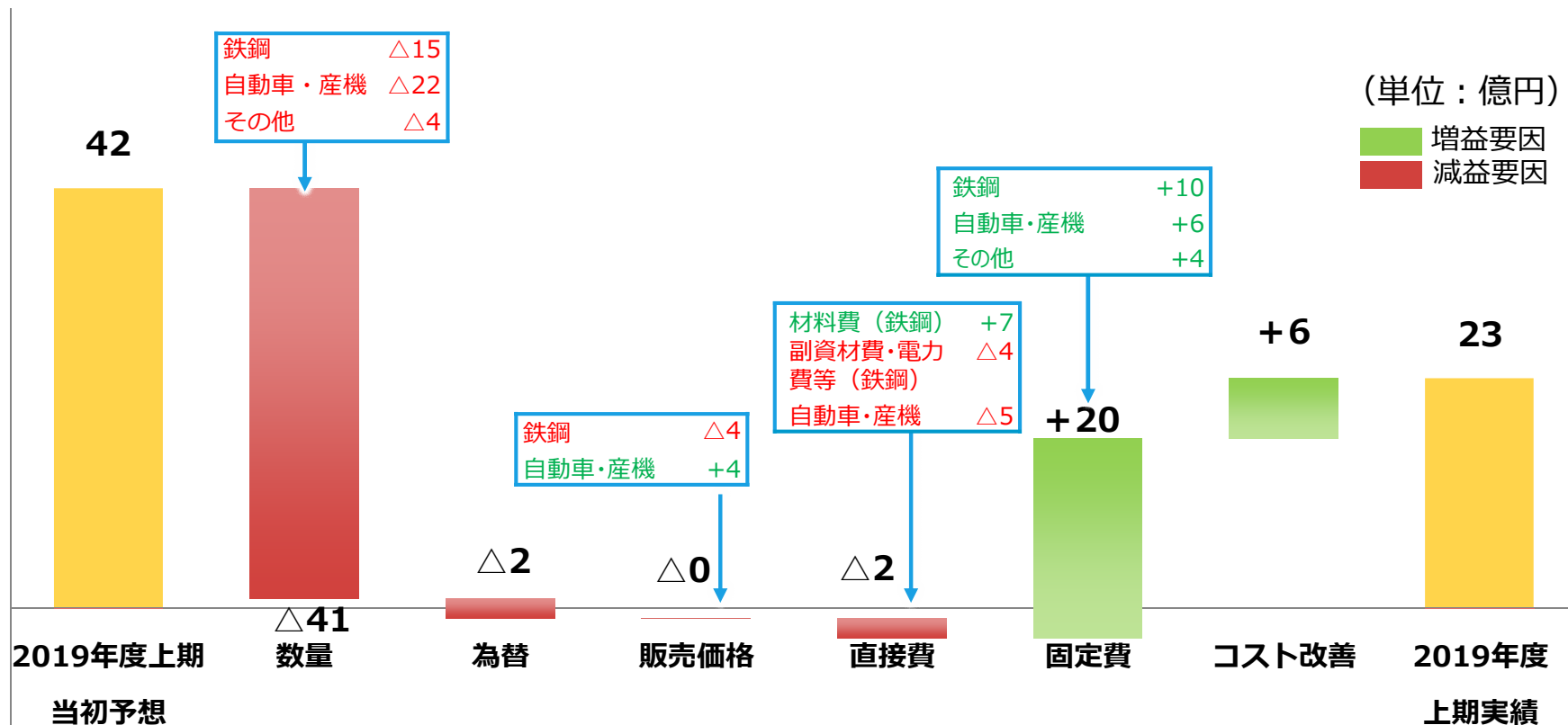
海外経済	－	米国：回復が継続
	×	中国：想定より成長鈍化傾向が強まる
	×	東南アジア：想定より成長鈍化傾向が強まる
日本経済	－	緩やかな回復が続くものの、輸出、生産に弱い動き

◆当社グループ

鉄鋼事業	×	鋼材需要は想定を下回る
	○	鉄スクラップ価格の低下が続く一方、販価維持によりメタルスプレッドが改善
	－	副資材価格は想定通り
自動車・産業機械部品事業	×	自動車用ホイール：米国、中国の自動車生産は想定を下回る
	×	履板・履帯：日系メーカーの油圧ショベル生産は想定を下回る
	×	鉱山機械用ホイール：鉱山機械需要は想定を下回る
発電事業	－	概ね想定通り

営業利益増減要因（対2019年度当初予想）

自動車部品・産業機械部品事業において、建設機械用足回り部品および鉱山機械用ホイールの販売数量が想定を大幅に下回ったこと等により、△19億円減益。



期間為替	2018年度上期当初予想	2019年度上期実績
米ドル	110.0円	108.7円
中国元	16.0円	15.6円

コスト改善	直接費 +6
	固定費 0



2019年度（2020年3月期） 通期業績予想について

2019年度 通期業績予想

下期についても上期同様、主に自動車・産業機械部品事業において、厳しい需要環境が続くと想定されるため、通期業績予想を下方修正。年間配当金予想も1株当たり90円から60円に修正。

(単位：億円)

	2018年度 実績	2019年度 当初予想 5月10日 公表	2019年度 修正予想 11月1日公表	当初予想対比	
				増減	増減率
売上高	2,862	3,070	2,700	△370	△12.1%
営業利益 (営業利益率)	75 (2.6%)	110 (3.6%)	65 (2.4%)	△45 (△1.2ポイント)	△40.9%
経常利益	94	114	70	△44	△38.6%
親会社株主に帰属 する当期純利益	71	80	45	△35	△43.8%
年間配当 (円)	90	90	60	△30	—

※下期の為替前提 1ドル：108.0円、1中国元：15.0円

2019年度 セグメント別業績予想



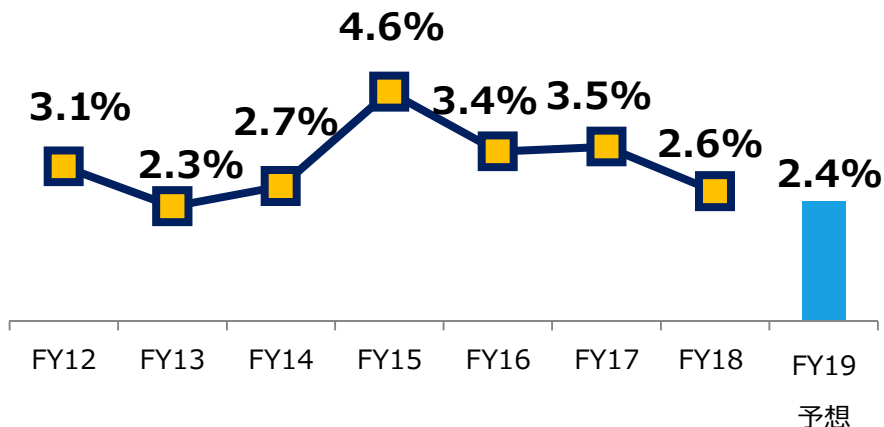
鉄鋼事業は増益となるものの、自動車・産業機械部品事業において、販売数量が想定を大きく下回るため、営業利益は大幅な減益となる見込み。

(単位：億円)

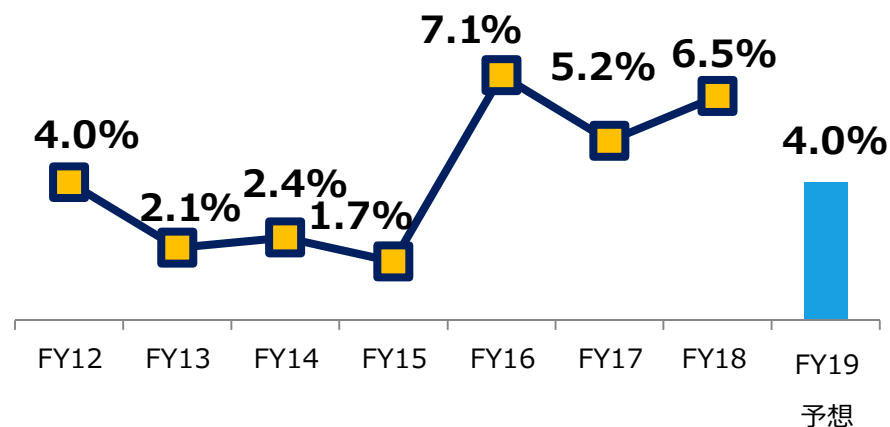
	2019年度当初予想		2019年度修正予想		当初予想比	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
鉄鋼事業	910	48	770	53	△140	+5
自動車・産業 機械部品事業	1,970	87	1,760	43	△210	△44
発電事業	97	7	95	6	△2	△1
その他	93	21	75	14	△18	△7
消去	—	△53	—	△51	—	+2
連結計	3,070	110	2,700	65	△370	△45

数値目標推移

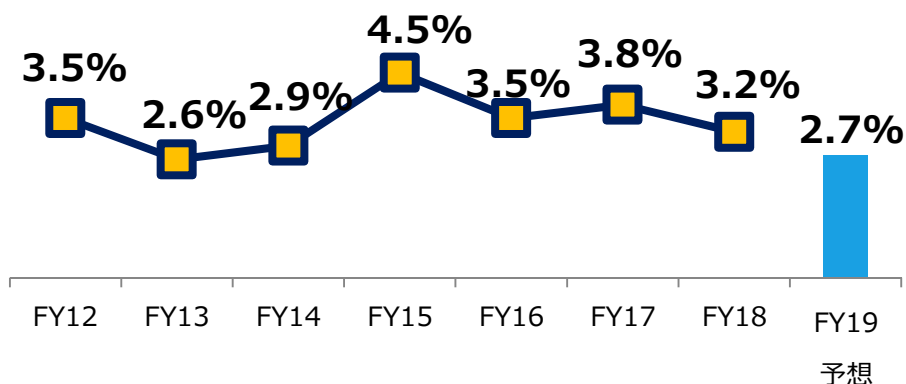
売上高営業利益率



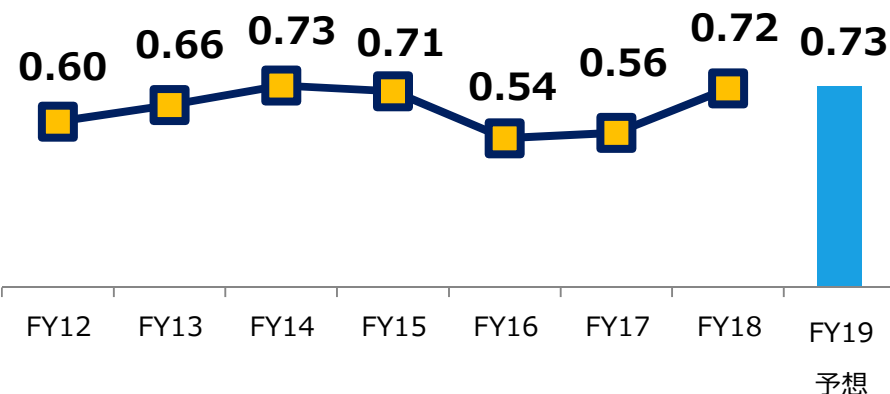
自己資本利益率 (ROE)



総資産事業利益率 (ROA)



D/Eレシオ





トピックス

「TACoil®」が2019年度グッドデザイン賞を受賞



・「鉄筋加工のあらゆるムダの削減」をコンセプトに開発した、鉄筋コンクリート用棒鋼のコンパクトコイル「TACoil®」（ティーエーコイル）が2019年度グッドデザイン賞を受賞するとともに、受賞対象約1400点の中から、特に高い評価を受けたグッドデザイン・ベスト100に選出。

【審査委員の評価コメント】

鉄筋の製造、保管、移送、加工において生じる様々な無駄を大きく軽減した点を高く評価した。ボビン状に巻き取られた棒鋼は、堂々とした美観も備えており情感を刺激する魅力も放っていた。



GOOD DESIGN AWARD 2019

BEST 100



■ TACoil® の特長

- ・加工効率の向上
(伸線、切断、曲げ作業を自動化)
- ・加工時のロスを極限まで低減
- ・高密度でコンパクトなため保管場所の省スペース化を実現。

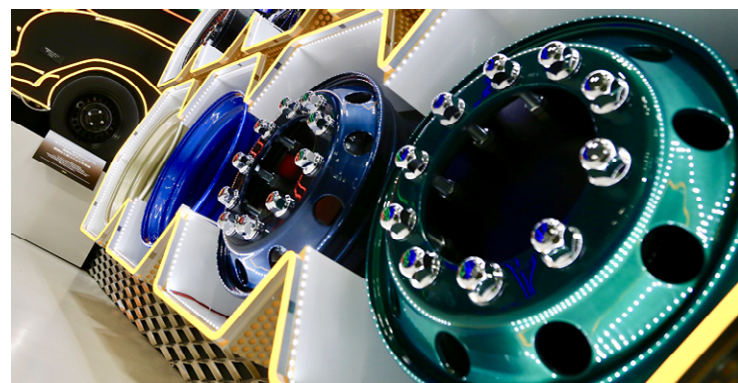


グッドデザイン賞授賞祝賀会でのベスト100点の紹介

東京モーターショー2019に出展



- ・東京ビックサイトにて10月24日～11月4日の会期で開催された第46回東京モーターショー2019に当社も出展。
- ・今回は、自動車メーカー各社の車体軽量化ニーズに対応し、省エネルギーとCO₂排出量削減等によって持続可能な社会の実現に貢献する軽量化ホイールおよびその製造技術等を紹介した。



【商用車向けホイールを多彩なカラーで展示】

キャタピラー社よりプラチナレベルの認証を7年連続で取得

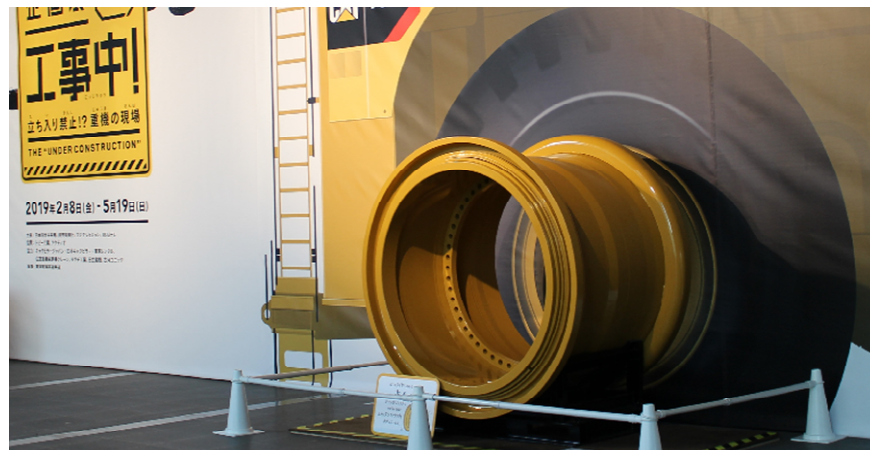


- ・鉱山機械用ホイールのサプライヤーとして、2018年のSQEP（Supplier Quality Excellence Process）プラチナレベル（最高位）の認証を7年連続で取得。
- ・キャタピラー社の8,000社以上あるサプライヤーの中、7年以上連続してプラチナレベルを認定されるサプライヤーは6社のみ。
- ・建設機械用足回り部品サプライヤーとしても、シルバー認証を取得。



【綾瀬製造所での SQEP 認証盾の受領】

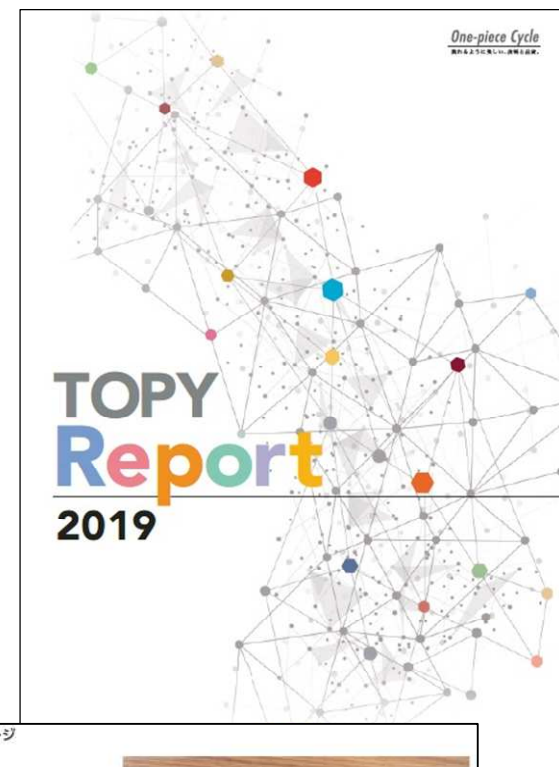
SQEP：品質・コスト・納期等を総合的に評価し、キャタピラー社が独自の基準により認証する制度。



【日本未来科学館の企画展「工事中！」で展示された当社鉱山機械用ホイール】

統合報告書 TOPY Report 2019 を発行

・トピー工業グループのあゆみ、持続的成長の実現に向けた価値創造プロセス、事業戦略、サステナビリティ（環境・社会への取り組み、ガバナンス）、コーポレートデータ等について、全てのステークホルダーの皆さまに分かりやすくお伝えすることを目指して編集しました。



P.7「トピー工業グループの価値創造プロセス」



TOPY INDUSTRIES, LIMITED

One-piece Cycle

流れるように美しい、技術と品質。

本資料は、金融商品取引法上のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、本資料に記載された将来の予測等は、資料作成時点で入手された情報に基づくものであり、不確定要素を含んでおります。従いまして、本資料のみに依拠して投資判断されますことはお控え下さいますようお願い致します。本資料利用の結果生じたいかなる損害につきましても、当社は一切責任を負いません。